

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2005-298056

(P2005-298056A)

(43) 公開日 平成17年10月27日(2005.10.27)

(51) Int.Cl.⁷

B 6 5 B 67/00

B 6 5 D 63/14

F I

B 6 5 B 67/00

B 6 5 D 63/14

A

A

テーマコード (参考)

3 E 0 5 7

3 E 0 8 5

審査請求 有 請求項の数 3 O L (全 5 頁)

(21) 出願番号 特願2004-121178 (P2004-121178)

(22) 出願日 平成16年4月16日 (2004.4.16)

(71) 出願人 504153484

有限会社 光洋ロール製作所

東京都大田区羽田 1 丁目 2 1 番 1 4 号

(74) 代理人 100070046

弁理士 角田 仁之助

(72) 発明者 木川 いさ子

東京都大田区羽田 1 丁目 2 1 番 1 4 号

Fターム(参考) 3E057 AD03 AD06

3E085 BA04 BA05 BA07 BB05 BC07

BD02 BD10 BE08 BE09 BF06

BG01 BH03

(54) 【発明の名称】 棒状軽量部材等の束ね方法及び装置

(57) 【要約】

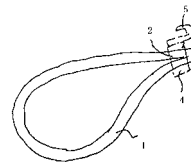
【課題】

棒状軽量部材等を所定の部位に束ねる方法でひもやひも類似のものを用いて外部から数回巻き付け縛る場合の困難性を解決する課題を有する。

【解決手段】

単数又は複数の棒状軽量部材等を所定の部位で束ねる方法及び装置において、輪状の弾性を有する束ね手段である既存の輪ゴムと、該輪ゴムの1端部で内面が密着するように形成された部位に金属のかぎの手状掛止手段とを設けて、棒状軽量部材の外面に数回巻き付け該輪ゴムの終端の他の部位を前記かぎの手状掛止手段の先端に掛止して、1拳動で束ねる方法及び装置を構成した。

【選択図】 図1



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

単数若しくは複数の棒状軽量部材等を所定の部位で束ね手段により束ねる束ね方法において、弾性を有する輪状の束ね手段と該束ね手段の 1 端部に掛止機能を設けた金属の弾性束ね掛止手段とにより、前記棒状軽量部材の所定部位を自在に束ねることを特徴とするように構成した棒状軽量部材の束ね方法。

【請求項 2】

輪ゴム又は輪状に形成されたゴムバンドの束ね手段と、該輪ゴム等の 1 端部で内面が密着するように形成された所定の長さの部位を被覆装着する装着部位と該装着部位から長手方向後方に突出すると共に側方にかぎの手状で且つ先端が束ね手段の方向に曲折するように形成された掛止機能を有する金属のかぎの手状手段とで、構成されたことを特徴とする棒状軽量部材等の束ね装置。

10

【請求項 3】

前記のかぎの手状掛止手段は、所定の矩形状の平板に長手方向に間隙を有して 2 個の周面に立上がり部を有する丸孔を設けてなる A 部材と、前記の丸孔の 1 つの外周を所定の寸法囲んだ 1 辺とその 1 辺を所定の寸法延長して端部を前記平板と平行に半円状に折り曲げると共に、その延長した 1 辺を他の丸孔の外周を外方から所定の寸法で囲みその延長を前記 2 個の丸孔の間隔を通り前記折り曲げ部位の近傍に配置し、該折り曲げ部位と共にかぎの手状に形成した針金状の B 部材と、前記 A 部材と B 部材と組み合わせ結合し、かぎの手状手段の反対側の側面に、輪ゴムの 1 端部を束ねて装着結合するように構成した請求項 2 の棒状軽量部材等の束ね装置。

20

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本発明は、棒状軽量部材等の所定の部位を束ねる束ね方法及び装置に関するものであり、輪ゴム等の輪状に形成された弾性部材を用いて、いわゆる、ひっかける輪で束ねるものに関する。

【背景技術】**【0002】**

従来の単数若しくは複数の棒状軽量部材を所定の部位で束ねる束ね方法には、束ねる棒状軽量部材に、例えば、ひもやひも類似のものを用いて所定の部位を外部から巻きつけるか、又は、既存の輪ゴム又は輪状に形成されたゴムバンドを用いて同様に巻き付け束ねる方法の便利な衆知の方法があつた。又、棒状軽量部材の束ねに用い得る特定の締結手段の器具を用いる、いわゆる P R バンドで巻き付ける衆知の方法があつた。

30

【0003】

しかし、ひもやひも類似のもので棒状軽量部材等を束ねるには、該棒状軽量部材等の外部の所定部位にひも等をぐるぐる巻きにして数回巻き付けると、終端が大きく開くので、終端をほどけないように、縛る等して束ねなければならなかつた。そして、それをほどくには、固く縛ったものをほどくには時間がかかるという欠点があつた。輪ゴム又は輪状に形成されたゴムバンドを用いる場合には、ほどけないように、力をいれて巻き付けたものは、該輪ゴム又はゴムバンドが切れたり、又、容易にほどけないことがあるという欠点があつた。又、P R バンドを用いるものは、特定の締結手段が必要であつた。

40

【特許文献 1】特許第 3 0 9 1 1 8 9 号は、P R バンドを用いるものに関する。

【発明の開示】**【発明が解決しようとする課題】****【0004】**

本発明は、前記の従来の棒状軽量部材等を所定の部位に束ねる方法でひもやひも類似のものを用いて外部から数回巻き付け縛る場合の困難性を解決し、又は、輪ゴム又は輪状に形成されたゴムバンドの使用における困難性を解決する課題を有する。

50

【課題を解決するための手段】

【0005】

本発明は、単数若しくは複数の棒状軽量部材等を所定の部位で束ねる束ね方法において、輪状の弾性を有する束ね手段と、該手段の１端部に、掛止機能を設けた金属の弾性束ね掛止手段とにより、前記棒状軽量部材の所定部位を自在に束ねることを特徴とするように構成した請求項１の棒状軽量部材の束ね方法と、既存の輪ゴム又は輪状に形成されたゴムバンドの束ね手段と、該輪ゴム等の１端部で内面が密着するように形成された所定の長さの部位を被覆装着する装着部位と該装着部位から長手方向後方に突出すると共に側方にかぎの手状で

且つ先端が束ね手段の方向に曲折するように形成された掛止機能を有する金属のかぎの手状掛止手段とで、構成されたことを特徴とする請求項２の棒状軽量部材の束ね装置を構成した。又、前記のかぎの手状掛止手段を構成した請求項３を構成した。

【発明の効果】

【0006】

本発明は、前記の従来束ね方法の困難性を解消して、棒状軽量部材を１挙動で束ねるという便利性を発揮する効果を有する。又、既存の輪ゴム等及び金属の掛止部材は安価で大量に得られるという効果がある。

【発明を実施するための最良の形態】

【0007】

弾性を有する輪ゴム又は輪状に形成されたゴムバンド等の輪状部材で形成された束ね手段と、該輪ゴム等の１端部で、内面に密着するようにされた所定の長さの部位を被覆装着する装着部位と、該装着部位より長手の後方に突出すると共に側方にかぎの手状で、且つ先端が束ね手段の方向に曲折するように形成したかぎの手状手段とにより、いわゆる、ひっかける輪手段で、構成した棒状軽量部材等の束ね方法及び装置。

【実施例１】

【0008】

図１は、本発明装置の１実施例の説明用斜視図である。図１において、１は輪ゴムであり、図示のように輪状に形成されており、該輪ゴム１の１端部２は輪ゴム１の内面が密着するように形成された所定の部位４であり、該部位４に後記するかぎの手状掛止手段５が装着結合されている。図２は、本発明装置を用いて、複数の棒状軽量部材を束ねた１例を示しており、棒状軽量部材７、８の該側面の所定の部位を輪ゴム１で数回巻き付けその終端の輪ゴムをかぎの手状掛止手段５に１挙動で束ねたものである。図３は、本発明装置のかぎの手状掛止手段５の１例の拡大した詳細説明図である。図３において、９はＡ部材、１２はＢ部材である。

(１)に示す、Ａ部材９は、所定の矩形状の平板１０に長手方向に間隙を有した２個の立上がり側面１１－１を持った貫通孔１１、１１がもうけてある。

(２)に示すＢ部材は、細い針金状の金属線を用い図示のように形成する。即ち、(２)－１、(２)－２に示すように、該金属線は、前記Ａ部材９の１個の貫通孔１１の側面１１－１を所定の囲む１３と該１３の終端から曲げた所定の寸法の延長部位１４とその終端で半円状１５に形成された部位と、前記延長部位１４と並ぶ部位１６とその延長の部位１７は他の貫通孔１１の側面１１－１の外側を巡り２個の貫通孔１１、１１の間隔を通り前記半円状１５の部位近傍に１８に示すように配置されている。

(３)－１に示すように、前記Ａ部材９とＢ部材と組み合わせて結合した後半円状の部位はかぎの手状に曲げられかぎの手状掛止手段５が形成される。

(３)－２に示すように、輪ゴム１の１端部はかぎの手状掛止手段が更に細い針金２０により結合され、前記かぎの手状掛止手段５に、該輪ゴム１の他の端部が束ねられる。

【産業上の利用可能性】

【0009】

複数の棒状軽量部材、例えば、各種の寸法の部材又は、部品等からなる場合にその分類等を行い、前記束ね装置を用いることにより能率化と正確性が期待出来る。又、その分類、

10

20

30

40

50

区分けに別体の順序等のラベル(図示を省略)を添付して用いることにより、能率化と正確性等が期待される。

【図面の簡単な説明】

【0010】

【図1】本発明装置の束ね手段を用いた1実施例の説明用斜視図

【図2】本発明装置を複数の棒状軽量部材に用いた1実施例の説明用斜視図

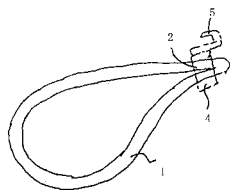
【図3】本発明装置のかぎの手状掛止手段の1実施例の拡大詳細説明図

【符号の説明】

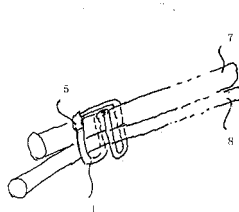
【0011】

1	輪ゴム等の弾性を有する輪状部材	10
2	輪状部材の1端部	
4	輪状部材の1端部を装着結合する金具の部位	
5	前記金具のかぎの手状手段	
7	棒状軽量部材	
8	棒状軽量部材	
9	A部材	
10	A部材の矩形状部材	
11	貫通孔	
11-1	貫通孔の立上がり側面	
12	B部材	20
12-18	B部材の各部位	
20	結合手段	

【図1】



【図2】



【図 3】

